

令和4年度 第1回環境水理部会 議事録

日時：令和4年11月24日（木）11:35～12:10

場所：松山市総合コミュニティセンター第4・5会議室

参加者（24名、敬称略）

部会長：竹林（京都大）

副部会長：赤松（山口大）

幹事：新谷（都立大）、吉川（北見工大）

委員：大槻（山梨大）、石塚（香川大）、巖島（東工大）、乾（福工大）、入江（大阪大）、片岡（愛媛大）、川村（寒地土研）、重枝（九工大）、清水（日本工営）、鈴木（八千代エンジ）、田井（九州大）、田代（名古屋大）、古里（水機構）、横山（都立大）

オブザーバー：久加（富山県大）、中谷（大阪大）、松尾（中電技術コン）、溝口（土研）、三輪（鳥取大）、矢島（島根大）

1. 部会委員・オブザーバーの確認（竹林部会長）

- ・配布資料の委員名簿の確認。修正等があれば、幹事：吉川先生に連絡。

2. 水工学委員会報告（新谷幹事）

- ・水工学委員の交代。2名加入（石川博基氏（国交省河川計画課）、渡邊武志氏（パシフィックコンサルタンツ））
- ・水工学委員オブザーバーに環境水理部会より大槻さんが加入（水害対策小委員会幹事長、減災・防災委員会緊急対応マネジメント小委員会 幹事）
- ・水工学に関する夏季研修会（9/5-6）：ハイブリッドで実施、対面は東京大学
- ・水シンポジウム in 山形の開催報告（7/21-22）、ハイブリッド形式、計538名参加
- ・令和5年度水シンポジウム、佐賀（8/3-4）、環境水理部会が担当、赤松副部会長を中心に開催
- ・2023年度河川シンポジウム、締切りが早まっているので注意（要旨1/6、本論文3/24）
- ・基礎水理シンポジウム2022（3/20開催、参加締切り3/13）
- ・Common MPの運営を国土交通省が中止、水工学委員会のコンソーシアム参加も中止。
- ・水工学論文集について来年度フォーマット変更、参考文献の書き方が変更となる。名称は水工学論文集が無くなり土木学会論文集（和文論文）、Journal of JSCE（英文論文）へ分散される。
- ・水工学講演会はCONFITでのWEB公開（講演会資料として）、土木学会論文集・J. of JSCEとしてJ-Stageに掲載。
- ・今年度の投稿数285、採択数213、採択率74.3%

- ・一般投稿数が見込めるため、水工学論文集からの英文論文集への推薦をとりやめる
- ・令和5年度水工学講演会は大阪大学で実施。(入江委員を中心に12/11-14のうち3日間を予定、中之島センターor吹田キャンパス)
- ・令和6年度水工学講演会は富山の予定(開催不可の場合、中部地方のいずれか)。
- ・令和5年度水工学に関する夏季研修会8/31-9/1 北海道大学工学部、対面実施を予定、国際的な話題をテーマに、清水康行教授(北大)が基調講演
- ・次期水工学委員会委員長選挙が行われ、泉典洋教授(北大)に決定。
- ・来年度の環境水理部会長は、部会からは赤松副部会長を推薦、最終決定は水工学委員長

3. 2022年度の研究集会(吉川幹事)

- ・アンケートの結果、オンラインで実施予定。
- ・日程決定次第、12月中に仮登録(発表の意思、タイトル)、1月メドに概要提出
- ・午前及び午後での開催を予定。どちらかの参加でもできるように登録フォームを作成予定
- ・土木学会 or 京都大学のzoomを利用予定

4. 2023年度研究集会・現地見学会(吉川幹事・横山委員)

- ・2023年5月25日(木):発表集会、26日(金):現場見学会を予定
- ・宮城県気仙沼市、多自然川づくりの河口での適用事例、塩性湿地の再生を見学
- ・日程に関し、吉川先生から再度部会員あて、調整の連絡予定

5. 次期副部会長の選出(赤松副部会長)

- ・選出プロセスの説明
- ・現幹事の新谷幹事が推薦され、審議の後、承認。

6. その他

- ・水シンポジウム in 佐賀、環境水理部会が担当なので積極的な参加を。